

藤沢  
 税務署長  
 賞

藤沢市立長後中学校 3学年 今田 天翔

税に救われた、僕とお爺さん

「右足首靭帯損傷です」部活でサッカーをしていた僕は、足を怪我することが多かった。怪我をするたびに接骨院に行き、治療をするのだが、そこで僕はよく税金の恩恵を受けるのだ。治療費はそこまで高くはないしろ、無視できない程度の金額は要求される。そのたびに僕は家族に申し訳ない気持ちになる。しかも僕は怪我が多いのでまさに「塵も積もれば山となる」といった状況だった。

会計時、母は封筒を差し出す。その封筒こそが僕にとっての救いになるのである。この封筒の正体は、日本スポーツ振興センターの封筒であり、学校内での怪我の治療費を請求することができるのだ。これのお陰で僕は、気兼ねなくサッカーをして、思いっきり怪我をすることができる。

日本スポーツ振興センターの設立費は国のお金、つまり税金、運営費の一部も税金から補填されている。つまり僕は税金のお陰で怪我を治せて、家庭に負担をかけずにいられるのである。税金といえば、消費税や公共事業、国の借金などに注目が集まりがちであるが、こういった些細な怪我など、本当に身近なことにも税金が使われていることにも注目してほしいと思う。実際僕も中学に入って部活をやって病院のお世話になるまではこんな体験をしなかっただろうし、気付くこともなかった。だからこそ、更に税金があることの必要性に気がつくことができたのである。

税金を納めることは、私たちの義務であると同時に、私たちが暮らすことのできる権利だと僕は思う。日本は、世界の国々に比べて税率が高いと言われている。しかし、日本の就学率や識字率、上下水道などのインフラ、多岐にわたる公共サービス、オリンピックなどの様々なイベントが税金によって行われていることを考えると、一概に高いとは言えないのではないだろうか。

僕のお爺さんは先日入院した。お医者さんに「あと少しで危なかったですね」と言われたお爺さんは、いつも強がりだけれども、涙を浮かべていた。暑い八月、冷房の効いた、新しい病院で僕のお爺さんの命を救ってくれたのは、お医者さんであり、税金だった。

今回の二つの話は体験しないほうが幸せなこと、しかしいつ起こるか分からないとても身近なことから税金の大切さを体感した。しかし日本に住んでいる以上、誰もがみな意識していなくても税金と関わり合っている。

日本はこれから、超高齢化社会に向かっていくと言われている。今の日本を作ってくれた人たちを税金という名の恩返しで支えていくのは、まさに僕たちなのである。ただ単にお金を国に払っているという感覚では税制度は廃れていくと思う。これからの僕らに必要なのは、この税金は何のために使われるのか、税金の大切さをしっかり理解し、納税することだと思う。僕はその大切さをよく理解し、重要性を伝えていきたいと思う。

藤沢  
 税務署長  
 賞

藤沢市立羽鳥中学校 3学年 西野 ひなの

国を支える資金

税制とは何か。税金の使い道は、日本国憲法第三十条には、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」と書かれている。だが、この税金がどのように使われているのか気にせず、ただ百円のを百八円で支払っている人が多いのではないだろうか。今、税金は八パーセントから十パーセントに増税されようとしている。私は、「上がってほしくないな」と思っていたし、このように不満を持つ人も多いのではないだろうか。

道徳の授業で、アフリカの私よりも小さい子供たちが危険な労働をしているという映像を見た。理由は様々だったが、「妹、弟を学校に行かせてあげたい。」といった子がいた。給料は安いしとても大変だけれどかわいい妹弟のためなら、とつらい顔を見せず笑顔で話していたのがとても印象に残っている。日本では、小中学校は義務教育で、その教育費は国の税金が使われている。一人当たり小学校六年間で約五百三十四万円、中学校で約三百三万円が使われている。私たちは、当たり前前に小学校、中学校で教育を受けるが、それがどんなに幸せなことなのだろう。

税金の種類はといえば、消費税や所得税など、およそ五十種類がある。では、その使い道はなんだろうか。学校だけでなく、身近なものでいうと警察や消防、ゴミの

処理、道路の舗装などがある。例えば、救急車を呼ぶのに使う税金はおよそ四万五千元。最近では、こんな大金がかかる救急車を軽症者がタクシーを呼ぶように使うケースが多いという。それだけでなく、軽症者が救急車を多く呼ぶせいで、重症者への救急車の到着が遅くなっているのも事実だそう。とても残念だった。この例だけではなく、一人一人がこの税金の重み、税金をどう使うべきなのか、自分の考えをしっかりと持つべきだろう。

この作文を書くにあたって、税金のことをよく調べてみたが、自分の無知さ、増税はいやだ、なんて思っていたことに情けなさ、恥ずかしさを覚えた。税金を払うことは私たちの生活を支えてくれる大事な制度だ。だからこの素晴らしい制度について、もっと知ってもらい必要がある。税を支払わされている、という感覚ではなく、税を払って国をよりよくしている、と考え自分が税に受けてきた恩恵を忘れずに生活する。そんな人が増えたら、また自分自身がそう思えたら、もっと国が良くなるのではないだろうか。私は、税金を通してこの国がより豊かで優しさ溢れる社会になることを願って納税していきたい。